

『今もなお働かれる神』(ヨハネの福音書 5章8-18節) 2021.8.8.

<はじめに> 子どもを育てることは、身体的に養うこととともに、生きる価値観を与えることです。「これは大切なこと」と教えるために、どうすればよいでしょう。私たちは神様が大切にしておられることを、どうやって学び取ればよいのでしょうか。

I その日は安息日(8-18)

①床を取り上げることは…(8-18)

38年間病で臥せる人を、イエスは癒され、彼は床を取り上げて歩き出しました(8-9)。その日が安息日だったので、ユダヤ人たちは床を取り上げた彼を咎め、やがて彼を治したイエスに非難は向けられます。それほどユダヤ人にとって安息日は大切な日でした。

②聖なる日

安息日は神が万物の完成を祝う日(創 2:1-3)です。十戒でこの日を聖なる日とされ、一切の仕事を禁じられました(出 20:8-11、申 5:12-15)。神が休まれたように、私たちも休むためです。彼が床を取り上げて運んだことは、これに抵触すると彼らは激怒したのです。

③安息日の主(マルコ 2:27-28、ルカ 13:15-16)

イエスが安息日にこのようなことをされたのは一度ではありません。ルカ 13:15-16 にイエスの安息日理解が示されています。長年の病から解放されることは、御心に適っています。安息日は人のために設けられ、人を祝福し、生かすためのものです。

II あなたは良くなった(14)

①見なさい

イエスは癒された彼を宮の中で再び見つけて、声を掛けられました。神が何をしてくださったのかを「見なさい」とイエスは言われます。先に会った時は病臥して不平をつぶやいていましたが、今は自由に歩き、宮に入り、神をたたえる一員と変えられています。

②もっと悪いこと?

「罪」と聞いてどんなことを思い浮かべますか。「もっと悪いこと」でイエスは脅しておられるのでしょうか。すべての病・不幸と罪を短絡的に結び付ける人は、神が罰を与える恐ろしい方と思い描くでしょう。本当に神はそのような方なのでしょうか。

③もう罪を犯してはなりません

イエスのことばは未来志向です(参照 9:3)。彼が病から解放され、良くなったのは、再び罪を犯すためではなく、回復されたいのちに相応しい歩みをするためです(ロマ 6:4)。安息日は神が人を生かし祝福し、人はその神を愛し、信頼を表す機会です。

III わたしも働いている(17)

①わたしの父は働いている

安息日を破るイエスを責めるユダヤ人たちにイエスが答えたことばです。神は創造のわざを完成されて休まれましたが、人の罪によって壊されました(創3章)。直ちに神は救済と修復に動かれ、それは今なお続いています。御子イエスを遣わされたのはそのためです。

②わたしと父はひとつ(10:30)

だからイエスは安息日に人を癒し、生かすことを繰り返されました。安息日に為すべき神の御心だからです。ユダヤ人がこの日イエスに殺意を抱いたのは対照的です。イエスと父なる神は思いもわざも一つです。しかし、彼らにはイエスも自分と同じに見えました。

③きよい者へと育てるため

神聖は俗と区別され、教えられなければなりません。これを混同することが罪です。そのために安息日が設けられました。そこから父なる神のように考え、思い、物事を見、事を行うことを人に体得させるためです。そして、神と同じきよい心を持つ者へと育てられます。

<おわりに> 私たちの内に神の御像を映すために、父なる神もイエスも絶え間なく働いてくださっています。「主よ。どうぞ私にあなたの思いを教え、あなたとともに歩む者としてください。」(H.M.)